西洋史概説　　伊藤 栄晃

授業概要

今日「西洋」と呼ばれる文明が、歴史的にどのようにして立ち現れて来たかを、古代地中海世界の解体前後の事情の説明から始めて、ヨーロッパ中世社会の盛期までの過程までを中心に講義する。西洋は、近代世界を工業技術や政治経済制度ばかりではなく、文芸や諸科学などでも常にリードしてきた。とりわけ個人の自由の観念・宗教的寛容・政教分離原則・分権主義などの考え方の芽は、すでに中世盛期の「グレゴリウス改革」期までに形作られていた。このためヨーロッパ社会の歴史的起源とその成長というテーマは、常に歴史研究者の多くを引き付けてきた。講義では、古代地中海世界の東西分裂・ゲルマン人移動・イスラームの西地中海進出・カロリンガ帝国の形成・そして「教会＝国家」体制の確立と否定に至る一連の流れを、これまでの研究者たちの成果をひとつひとつ踏まえながら講じる。

授業計画

第 1 回	講義概要：「西洋」とはなにか　授業の進め方について
第 2 回	古代地中海世界①：ローマの二つの顔　ラテン語文化圏とギリシャ語文化圏
第 3 回	古代地中海世界②：西方ラテン語文化圏の没落と東方ギリシャ語文化圏の繁栄
第 4 回	古代地中海世界③：キリスト教の成長とギリシャ語文化圏
第 5 回	「ヨーロッパ世界」の起源①：ローマニストの考え　「末期古代」の設定
第 6 回	「ヨーロッパ世界」の起源②：ゲルマニストの考え　「ゲルマン人移動」の意義を巡って
第 7 回	「ヨーロッパ世界」の起源③：アンリ・ピレンヌの考え　イスラーム侵攻の評価
第 8 回	「ヨーロッパ世界」の起源④：レオポール・ジェニコの解釈
第 9 回	「ヨーロッパ世界」の形成①：カロリング家とローマ教会
第 10 回	「ヨーロッパ世界」の形成②：ピピンとボニファティウス　「カロリンガ・クーデタ」
第 11 回	「ヨーロッパ世界」の形成③：カール大帝の「西ローマ皇帝」戴冠
第 12 回	「ヨーロッパ世界」の確立①：カロリンガ帝国の統治体制　世俗と教会
第 13 回	「ヨーロッパ世界」の確立②：ノルマン侵攻と帝国の分裂
第 14 回	「ヨーロッパ世界」の確立③：「教権制の時代」とグレゴリウス改革
第 15 回	「ヨーロッパ世界」の確立④：世俗国家の自立と「諸国家並存体制」近代への展望
第 16 回	筆記試験実施　論述式

到達目標

「西洋」と呼ばれる文明の特徴とその形成過程とについて、幅広い教養と専門的知識とを身に着けそれらを自分の言葉で説明できること。現代社会において「西洋」的な価値が果たしている意義・役割とその課題について、自分なりの問題意識を育み、それを提起できるコミュニケーション能力を獲得すること。それらを通して国際文化理解の促進に貢献する意思と能力とを培うこと。

履修上の注意

高校「世界史」や「地理」の内容をよく学習し直しておくこと。また「西洋史学入門」をあわせて受講することを推奨する。理解の深化のため重要文献を題材としたレポートの作成（必須）が求められる。また知識定着度確認のため小テストを合わせて５回実施し、平常点の一部を構成するので必ず受験すること。

言うまでもなく、無断での欠席・遅刻は厳禁とする。

予習・復習

毎回講義終了時に次回講義のキーワードを提示するので、必ずそれらについて各自十分に調査し、ノートをとっておくこと。理解が不十分な点については、授業時間内に質問コーナーを設けているので、質問してほしい。質問は講義時間外でも受け付けるので、遠慮なく研究室を訪問してほしい。

評価方法

定期試験、小テスト、レポートの成績を総合して評価する。配分割合は、定期試験 60%、小テスト 20%、レポート 20%とする。

テキスト

教科書は特に用いない。参考文献については講義内で随時紹介する。